

西栗倉村では、2008年に「百年の森林構想」が発表されました。そして2009年には、それを実現して行くための百年の森林事業が開始。年間50ha程度であった間伐面積を300haまで拡大していくことを目標として、そのための人材とお金を集めることが始まったのも2009年。百年の森林構想を実現するために必要な人とお金を外部から集めること、さらに原木を売る村から最終製品を販売できる村にしていくことが私の仕事でし

校」を略して「西栗倉・森の学校」という名前
の村の総合商社が誕生することになったので
す。

私はコンサルタントとして村のお手伝いを
していくという立場だったわけですが、いき
がかり上、森の学校という会社の経営責任者
をやらせていただくことになってしまいました
。やる以上はなんとしても成功させたいで
すし、ある程度のスピードのある経営ができ
ないとベンチャー企業が軌道に乗ることは難

緑のエッセイ



た。小さな村が自立していくためには、大企
業の下請けから脱却し、村として顧客を持つ
ようにならなければならぬ。そのための村
の総合商社として設立されたのが、西栗倉・
森の学校という会社です。村の商社と言っ
ても、扱う商材もほぼないような状況からのス
タート。なので、商品や事業を生み出す人材
の発掘・育成からやることになりました。そ
んな訳で、「西栗倉村の森などの地域資源か
ら価値を生み出す起業家的人材を育成する学

しいので、村役場の出資比率は低くしてい
た。民間資本主導の会社になりました。こ
んな会社がビジネスとして成立すれば、日本
の山村はまだまだ元気にやっていけるかもし
れない。そんな夢を詰め込み、チャレンジ精
神旺盛な仲間たちとスタートしたベンチャー
企業。仲間たちはほんとはよく頑張っていま
す。でも、簡単に事業が軌道に乗るもので
なく、事業開始から間もなく3年、木材
加工場を稼働させてから2年半が経過しま

が、今も四苦八苦し続けている状況です。

チャレンジ精神旺盛な素人集団であるこの
会社が、まだ倒産せずに、前向きなチャレン
ジを継続し、売上を伸ばすことができている
のは、応援してくれる皆さんの人たちのお
陰です。「森と地域を元気にして行きたい」と
いう想いをもっておられる人が、日本にはた
くさんいるということを、実感しています。
林業の厳しさも今まで以上に強く実感して
いますが、その一方で、西栗倉村を応援して

●プロフィール
1974年、京都府生まれ。京都大学大学院（森林生態学
研究室）修了後、三和総合研究所（現在三菱UFJリサー
チ&コンサルティング）を経て2005年アマタ持続能
済研究所を設立し所長に就任。主に農山漁村における新
規事業の企画・プロデュースを手掛ける。2009年に
西栗倉村役場と（株）トビムシの共同出資により（株）西栗
倉・森の学校を設立し、代表取締役に就任。

ださるとつてもたくさんの人たちの存在から
林業にはとてもとても大きな可能性があると
感じています。森や木が好きなのはたくさん
たくさんいるのに、そこに木が届いていないこ
とも分かってきました。一緒にがんばろうと
言ってくださる工務店さんも増えてきました。
これから、もつともつと一緒にがんばれる仲間
を地道に増やしていきたい。そうすることが、
新しい木の市場を切り拓き、山村と林業を再
生していくことになると信じています。